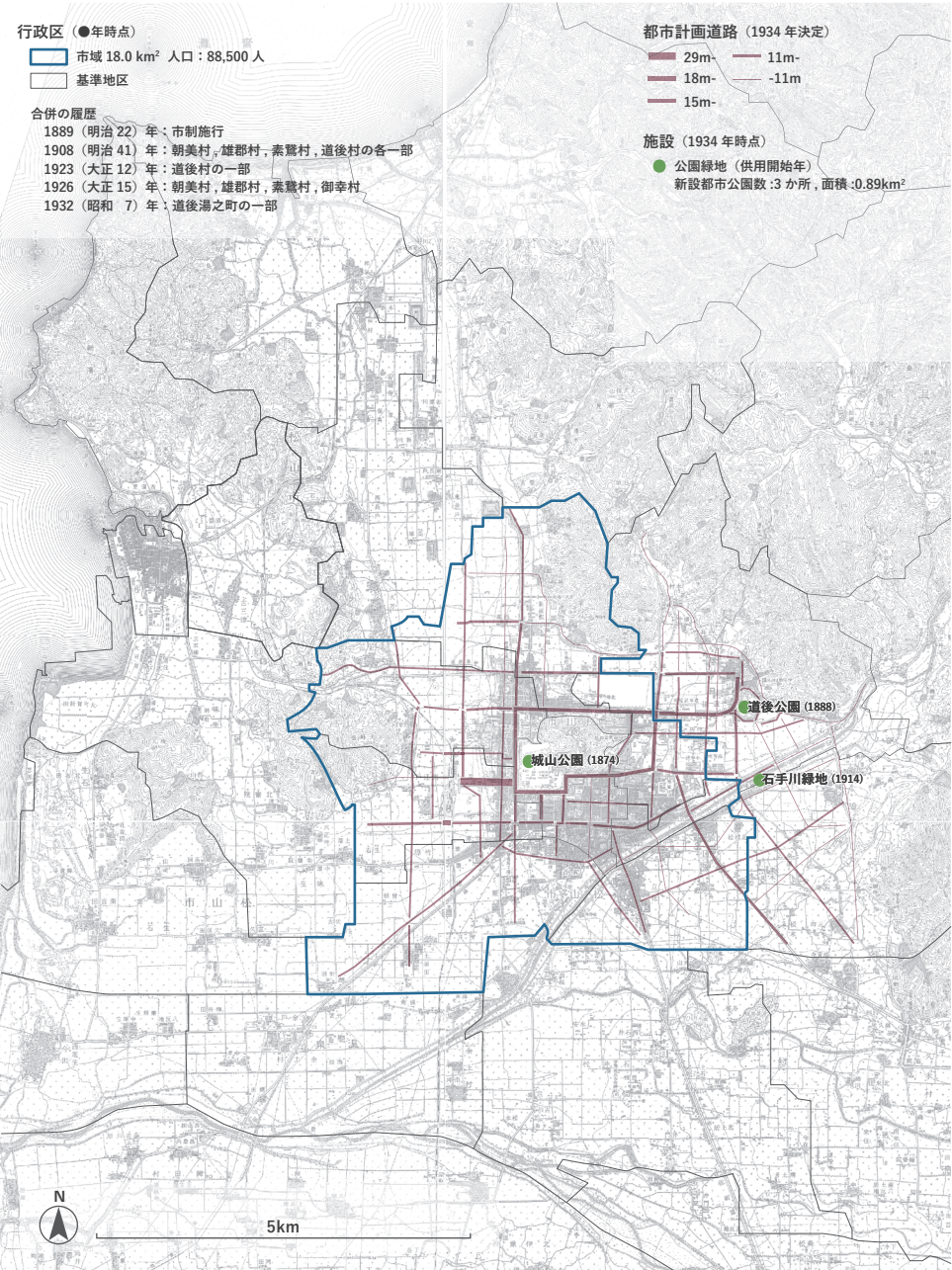


1.4 市町村合併と都市計画の変遷

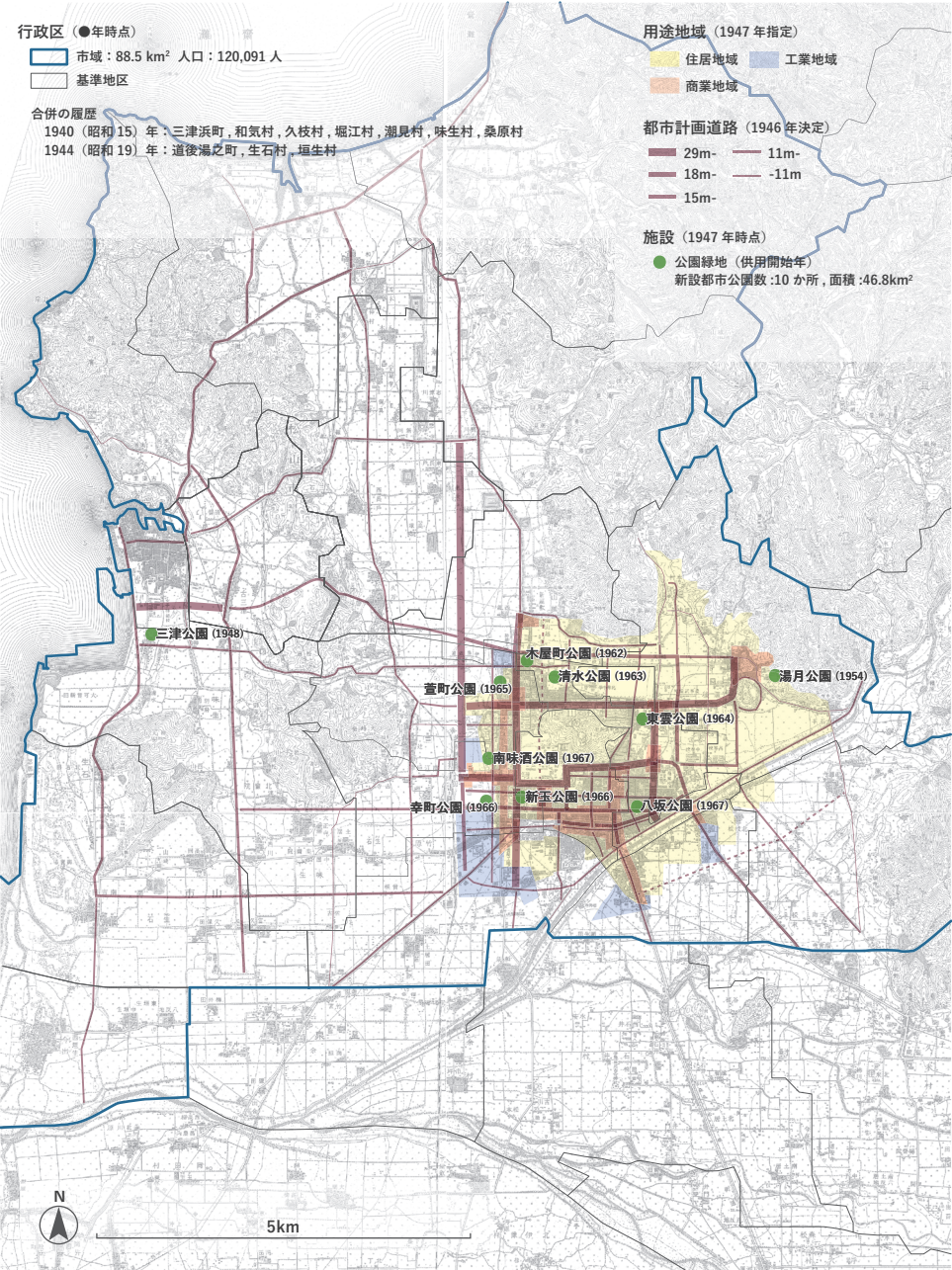


下図：旧版地形図 (1948, 国土地理院)

(1) 合併と都市計画区域の変遷

1) 1934 (昭和 9) 年の松山市

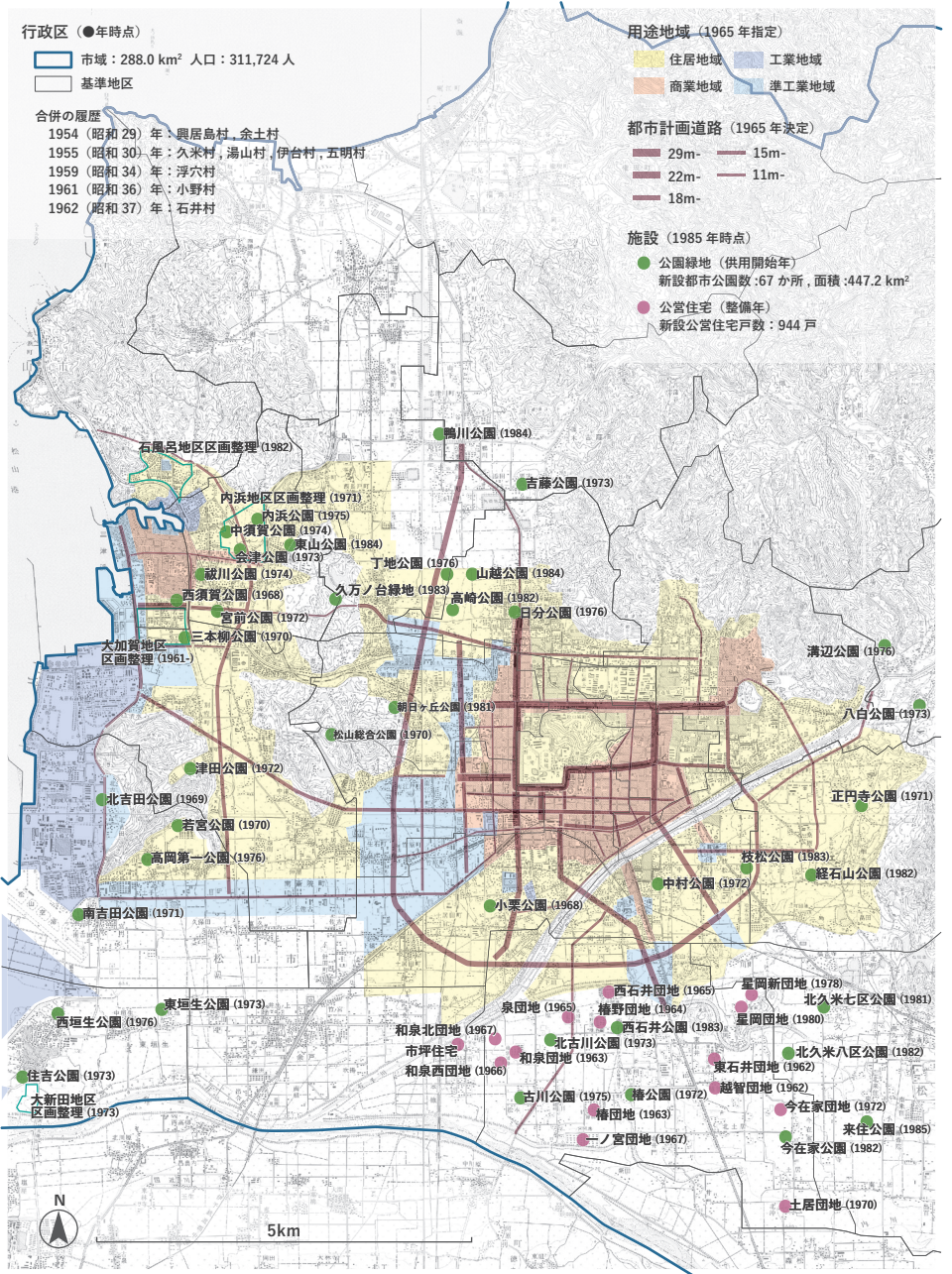
戦前、1934 (昭和 9) 年の松山市域は、城下町を基盤とする現在の中心市街地とそのひとまわり外側の農地や丘陵地を含むエリアであった。道後温泉地区は、道後湯之町として独立していたが、都市計画道路は接続されており、都市公園も整備されていた。



下図：旧版地形図 (1948, 国土地理院)

2) 1947 (昭和 22) 年の松山市

1940 年代に入ると、松山市は三津浜町及び道後湯之町を合併し、その範囲を拡大していった。終戦後、松山市中心部では戦災復興事業が行われ、前述の通り区画整理や街路整備、公園整備が行われた。戦前に計画決定されていた都市計画道路は、合併後の市域に交通網を張り巡らせる中で、特に三津浜方面の港湾部工業地帯との接続が意図されていた。また、三津浜との接続は、古くからの名所である梅津寺や興居島等への動線もあり、観光振興の側面もあったと考えられる。



下図：旧版地形図 (1968, 国土地理院)

3) 1965 (昭和 40) 年の松山市

戦災復興事業が一通り完了した 1960 年中頃までに、松山市はさらに町村合併を行った。特に、中心市街地南部に広がる農村地域である余土村、石井村、久米村は、合併と同時に市街地化が急速に進行した。この際、住宅供給のために団地整備や住宅地環境整備のための公園整備が進められている。また、戦前から松山市の経済圏域として着目されていた三津浜でも市街地化が進行し、用途地域の設定と公園整備が進められているのがわかる。都市計画道路は自動車需要の増大や郊外の市街化を見据えて、放射状型の街路網を目指した松山環状線の計画が特徴的である。